

週刊文春

4月26日号 定価380円



大宅壮一ノンフィクション賞受賞

CATCH UP

『「つなみ」の子どもたち』 スイス・アルプス旅行記

東日本大震災から一年。作文集『つなみ』に寄稿した
子どもたちとその家族がスイス・アルプスに招待された。
自然の猛威を知る彼らだが、大いなる美景のなかで
何を感じ、何を故郷へ持ち帰ったのだろうか。

撮影 本社 山田真実





ソリで楽しげに遊ぶ佐々木莉奈ちゃんと洞口留伊ちゃん。この後、とんでもないことに!!



「天だ!」救助犬の登場に子どもたちは大騒ぎ。ユングフラウヨッホへの乗り換え駅にて



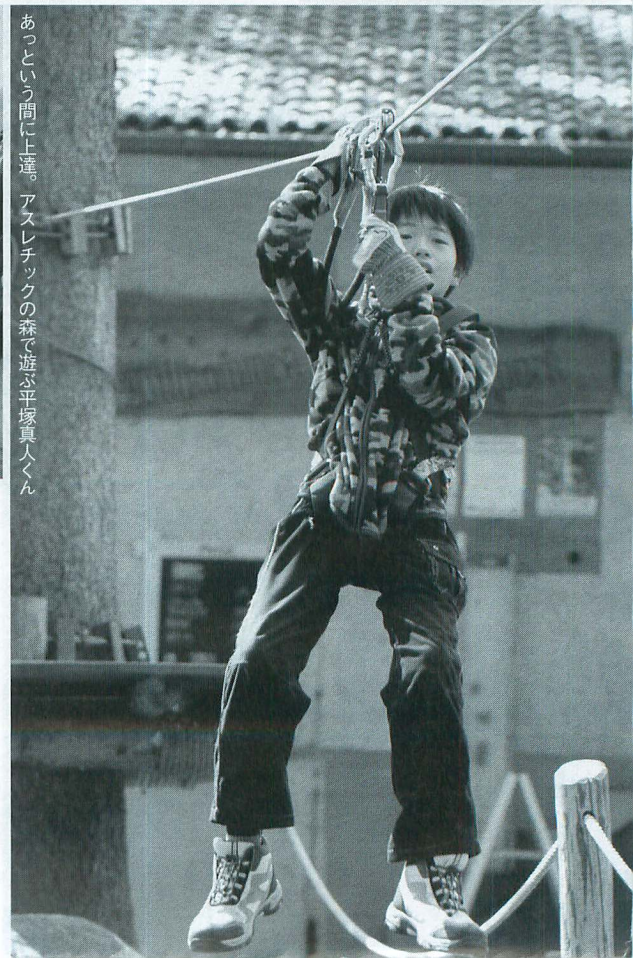
森健さんの発案で寄せ書きを始める子どもたち。お世話になった方々へ感謝の言葉を綴る

「合宿生活」最終日。毎日食事を作ってくれていたイヴと固い握手を交わす鈴木悠史くん



世界中の旅行者が訪れるインターラーケンの町。二頭立ての馬車で、グルリー巡り

あつという間に上達。アスレチックの森で遊ぶ平塚真人くん



「ハイジの国」で見た 大自然のもう一つの顔

見よ雄大な景色と子供たちの笑顔を！
ここは、アルプス。ホンマもんのスイスのアルプスである。写っているのは、東日本大震災で被害にあった人たち。震災から一年を機に、文藝春秋臨時増刊『つなみ 被災地の子ども80人の作文集』に寄稿した子供とその家族総勢二十五名が、スイスに招待されたのだ。

主催したのは「WINGS FOR JAPAN」。日本への翼と名づけられた非営利団体がこの作文集に注目し、スイスインターナショナルエアラインズ、スイス政府観光局、ユングフラウ鉄道、そして弊社の協力のもと、三月末にこの旅行は実現した。作文集『つなみ』の取材をし、その後『つなみ』の子どもたち」を著したジャ



写真を見てニッコリ。佐藤春菜ちゃん(右)とカメラを覗く菜摘ちゃん
 宿泊先で記念写真。真ん中で手を振るのがこの旅を主催したベアト



旅の後半でアルプスランチ。すっかり打ち解けた佐藤さん家族と黒沢さん家族

ーナリスト・森健氏も、(ツアコン)として「ハイジの国」への旅に参加した。チューリッヒ空港から車で二時間ほどのベルン州・インターラーケンを拠点に、周辺一帯がユネスコ世界遺産に認定されている「グリンデルワルト」、欧州最高峰「ユングフラウヨッホ」など、世界有数の景勝地を訪れた。

天気は快晴。大人は景色の美しさにため息を漏らし、チーズとワインに舌鼓。子どもはハイジとベーターさながらに、パンとハムを頬張り、アルプスの地を駆け回った。自然の恐ろしさを経験した彼らの目に、アルプスの美景はどのように映っただろうか。なお、帰国後、森健氏と被災地の子どもたちに大宅壮一ノンフィクション賞が贈られるという、朗報が届いた(新大宅賞作家・森氏の特集記事と併せてお読み下さい)。